

授業科目(ナンバリング)	貧困に対する支援 (DC201)			担当教員	脇野 幸太郎		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<ul style="list-style-type: none"> ・貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ・貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。 ・貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 ・貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 							①②③⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	生活保護制度をはじめとする、生活困窮者救済のための諸制度について説明できる。				・小テスト 20% ・定期試験 20%	40%	
情報収集、分析力	生活困窮や貧困はなぜ発生するのか、社会的背景を踏まえつつ説明することができる。				・小テスト 10% ・定期試験 50%	60%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験（穴埋め・択一・論述を併用）のほか、小テストを2回、小レポートを2回実施し、これらを総合的に勘案して評価を行う（フィードバックとして、小テストについては、その場で自己採点を行い、その後復習を兼ねた解説を行う。小レポートについては、意見を集約したうえで、次回以降の授業で紹介し授業内容理解の一助とする）。評価比率は上記のとおりである。</p> <p>評価基準は長崎国際大学の成績評価基準に準拠する。</p>							
授業の概要							
<p>授業は、指定テキストと配布レジュメを併用して行う。また、DVD鑑賞なども行い、それをもとに公的扶助の諸問題について受講者とともに議論するアクティブラーニングの機会も設けたい。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：増田・脇野編『よくわかる公的扶助論』法律文化社、2020</p> <p>参考書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援』中央法規・2021</p> <p>指定図書：教科書と同じ。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の実践者として、公的扶助や貧困の問題について、社会全体の問題として考える姿勢を身につけてほしい。 ・そのために、日ごろから新聞等に目を通し、日本や世界各国の貧困問題に広く目を向けてほしい。特に現在、日本の生活保護は基準の見直しや法改正が行われるなど、制度をめぐる動きが急である。そのような動向について常に留意する姿勢を持ってほしい。 ・予習、復習として、教科書の指定箇所を授業前後に必ず読んでおくこと。 ・生活保護をはじめとする諸制度について、単に「暗記」しようとするのではなく、制度そのものを「理解」するよう努力してほしい。そのために、講義には休まず出席し、特に復習を確実にすること。万一理解できなかった事項については、決してそのままにせず、いつでも遠慮なく質問してほしい。 							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 貧困に対する支援とは	講義の進め方、講義の予定などについて説明する。 貧困とはどのようなものかについて、入門的な説明を行ったうえで、関連するDVDを視聴する。その内容に関する授業内小レポートを提出してもらう。	予習：教科書序章を詠む。 貧困問題とは何か、自分なりに考えてみる。
2	<u>貧困の概念</u>	「貧困」の概念と、その発生要因について理解する。	予習・復習：教科書第1章を読んでおく。
3	<u>貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境</u>	品子状態にある人の生活実態と、わが国における貧困の現状がどのようなものかを、具体的な事例を通じて理解する。	予習・復習：教科書第2章を読んでおく。
4	<u>貧困の歴史①</u>	貧困状態にある人に対する福祉の理念がどのように確立されてきたかについて、貧困観の変遷をたどりながら考察する。	予習・復習：教科書第11章を読んでおく。
5	<u>貧困の歴史②</u>	貧困に対する制度がどのように発展してきたかについて、イギリスと日本の歴史を取り上げながら考察する。	予習・復習：教科書第11章を読んでおく。
6	<u>貧困に対する法制度（1）生活保護法①</u>	保護の理念、目的、基本原理、基本原則について理解する。	予習・復習：教科書第3章を読んでおく。
7	<u>貧困に対する法制度（2）生活保護法②</u>	保護における給付の種類、範囲、方法について理解する。	予習・復習：教科書第3章を再度読んでおく。
8	<u>貧困に対する法制度（3）生活保護法③</u>	最低限度の生活の具体的な基準となる「保護基準」について、その決定の仕方の変遷と、現在の決定方式を理解する。最低生活費の算定方法について理解し、実際に自分の最低生活費を計算してみる。 *第6回～第8回の内容に関する小テストを実施。	予習：教科書第4章を読んでおく。小テストに向けた復習。 復習：小テストの復習。
9	<u>貧困に対する法制度（4）生活保護法④</u>	相談、申請から受給に至る保護のプロセスについて理解する。	予習・復習：教科書第6章を再度読んでおく。
10	<u>貧困に対する法制度（5）生活保護法⑤</u>	被保護者の権利義務について理解する。 不服申し立ておよび行政訴訟について理解する。	予習・復習：教科書第4章第4節5節を読んでおく。
11	<u>貧困に対する法制度（6）生活困窮者自立支援法</u>	生活困窮者自立支援制度の概要、生活保護法との関係について理解する。	予習・復習：教科書第7章第4節を読んでおく。
12	<u>貧困に対する法制度（7）低所得者対策</u>	生活福祉資金貸付医制度、無料低額診療事業、無料低額宿泊所、求職者支援制度、法律扶助、低所得者への住宅政策と住居支援などの低所得者対策について理解する。	予習・復習：教科書第10章を読んでおく。
13	<u>貧困に対する法制度（8）ホームレス対策</u>	ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の概要、ホームレスに関する動向、ホームレス支援施策などについて理解する。 *第9回～13回のないように関する小テストを実施。	予習・復習：教科書第10章を再度読んでおく。
14	<u>貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割</u>	貧困に対する支援体制（公私の役割関係、国・都道府県・市町村の役割、福祉事務所・自立相談支援機関の役割、各専門職（精神保健福祉士、医師、保健師、理学療法士、作業療法士等）の役割について理解する。	予習・復習：教科書第8章を読んでおく。
15	<u>貧困に対する支援の実際</u>	貧困に対する支援の実際的な具体例を取り上げ、そこでの社会福祉士に役割や多職種連携のあり方について考える。	予習：これまで学習した内容のふり返り。 復習：定期試験に向けた復習。
16	定期試験		